



# よろこび

2025.11.20 第 147 号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信



小林 よう子 先生

日本基督教団に年金局というものがあって、隠退した教師や、教師の遺族の生活を支えている、ということとは、知らないところで行われている働きで、自分に関係があるとは思って見たこともありませんでした。二十歳で洗礼を受けて、教会の教会員になりましたが、「隠退教師を支える運動」のことも、謝恩日献金のこと、聞いたことがあったのかなかったのか・・・。

若かったわたしには、自分の教会のことを考えるだけで精一杯で、地区がちよつと見えるかな、というのが関の山。教区すらみえておらず、教団なんて全く得体の知れない存在だったのです。もちろん、自分の所属する教会が「日本基督教団」というグループに所属していることは、知識としては知っていました。それはただの看板でしかなかったのです。

の途端、教会が地区に、そして教区に所属しているということが、どんなに大事なことからいうことを経験するようになりしました。少ない人数で教会を支えている人たちは、地区や教区での教会同士の交わりで支えられ、励まされて存在しているのだということ、実感させられるようになったのです。一つの教会は、ただ一つだけで立っているのではない。多くの教会との交わりの中にあり、共に同じ主のもとにあるということが、大きな喜びなのだと思うようになりました。

さらにその後、神戸に移り住み、阪神淡路大震災で被災する経験を通して、自分がい

## 教会の交わりに支えられて

奥羽教区総会議長 小林 よう子

る教会は、日本基督教団に所属しているのだということを実感するようになりました。日本中の教会から祈りや支援が届き、さらに教団と交わりのある他の国の教会からの支援も受けたのです。

そして、突然の夫の死というとてもないことに直面することになりました。幼い子どもたちを抱えて、一体これからどうしていけばいいのか、夫が亡くなったというショックだけで頭の中は真っ白なのに、これからの生活について考えなければならぬ。非情な現実に襲われました。そんな時、教区事務所から教団の有期遺族年金の手続きをすると連絡がありました。目の前で起こる様々な出来事や、しなければならぬ皆さんのこと、考えなければならぬ問題に紛れそうになりながら、「遺族年金というものがあんだ」という情報は、ストンと腑に落ちました。自分がいた場所からすっかり追

い出されるのではなくて、支えてくれる制度があるらしい。子どもたちが成長するまで支えてくれるらしい。

いろいろなことが少しずつ片付いていく中で、教団には亡くなった教師の遺族を支える年金があるということが、揺るがない支えの一つになりました。とりあえず、なんとかやっていきそうな気持ちになりました。それも、教団の教会の交わりの一つなんだと思うと、さらに励まされる気持ちになりました。

なんと、世間知らずだったわたしは、半年後に教会を出て住む場所を移すまで、社会保険の遺族年金の手続きをしていないということに気づきませんでした。世の中では、そういう手続きは、自分から申し出て行わなければ、だれも「申請しなさい」なんて親切に言ってくれたりしないのです。幸い、期間的に間に合って、遺族年金は遡って支給されたのですが、このことは今

思い出しても冷や汗ものです。周囲の人たちは、あまりにも当然のことだったので、わたしが手続きをしていないなどとは、思いもしなかったでしょう。でも、教団の年金に関しては、自分でもらおうと思ったのではなく、それが

あることすら知らなかったにも関わらず、教区から声をかけてくださったのです。それは本当に世の中とは違う教会の交わりの素晴らしさだったとしみじみ感謝しています。

(こばやし ようこ)

八戸小中野教会牧師



## 全教区推進協議会

### 開催のご報告

「隠退教師を支える運動」推進委員会

事務局長 山田 昌人

2025年10月17日(金)に、例年同様午前午後4時間半に亘って「全教区推進協議会」を開催した。推進委員と教区・支区の推進員に監事・陪席者を加え、総勢26名(うちZoom4名)の参加者を与えられた。

開会礼拝(説教網中彰子総幹事)に始まり、昨年度事業報告・決算報告、今年度計画と上半期の活動状況の報告、

教団年金の近況説明（中川義幸年金局理事長）が行われた。昼食休憩の後、「運動の輪を広げよう」とのテーマの下、お二人の推進員による発題を受けて協議を進めた。

当運動の「私たちのビジョン」について八嶋由里子委員が想いを語り、一同で唱和。祈禱会を以って閉会した。参加されたお二人の推進員からご寄稿いただいた。

全教区推進協議会に参加して  
四国教区推進員 中山耕平  
2023年度から推進員として活動しております。全国協議会に参加するたびに「隠退教師を支える運動」が、隠退された先生方への感謝の気持ちから始められた信徒の運動である事、また教団の年金制度を支える大切な働きをしているという事を教えられております。

今回の協議会では、お二人

の推進員から発題がありました。ご自分の教区の「100円献金」の状況を細かく分析して、課題の解決のために具体的に、また熱心に取り組まれておられる様子が伝わる発題でした。そして、他の推進員の方々からも、教区の諸集会において、この運動についてのアピールをされているという報告が多くありました。どのように活動を行ったら良いのかと悩むこともあり、これらの実践報告は大変参考になりました。感謝いたします。鈴木委員長の閉会のご挨拶から「この運動はイエス様が喜ばれる働きであり、祈りをもって進めよう。」との思いを与えられました。イエス様



中山 耕平さん

により頼みつつ歩んで参りたいと思います。

（なかやま こうへい／土佐教会）

### 100円の献金が

東京教区西南支区推進員

大林 良子

初めての「隠退教師を支える運動」全教区推進協議会に出席いたしました。

網中彰子先生のお説教は「その一人に」マタイによる福音書25章31〜40節でした。その後、プログラムに沿って報告等がありました。改めて「謝恩日献金」と「100円献金」があること、それが皆さまのご奉仕に支えられていることに感謝しました。

私の教会では「隠退教師を支える運動献金」として「100円献金」を捧げていますので、残念ながら「100円献金」の趣旨に付いては多くの方は知らないのではないかと思います。

推進員をお引き受けて何



大林 良子さん

が私にできるのか？と思いましたが。幸いなことに、心もとない私は東京教区で一緒にたお仲間に出会いました。その方々に励まされて教会内や「婦人会の集会」等でチラシを配り「100円献金」の「趣旨をアピールしていきます」。「ささやかなるしずくすら、ながれゆけば海となる」「こまやかなるまさごすら、つもりぬれば山となる」（讃美歌463）のように、この運動のすべてが神さまの祝福で満たされますようにお祈りいたします。

（おおばやし よしこ

／三軒茶屋教会）

## 業 務 室 よ り

### ― 年金を受けている方へ ― 年金給付のお知らせ

12月の定例給付のご案内をします。

**送金内容** 2025年度第3期分給付  
(2025年10・11・12月分)

**送金日** 2025年12月10日(水)  
期日に、ご指定の金融機関に入金されて  
いない場合は、ご連絡ください。

**次回送金** 2026年4月10日(金)

連絡先・年金振込先の変更は、できる  
限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れ  
かで、年金局までお知らせください。

☆ 10月10日の定例給付日には、教師退職  
年金、キリスト教教育主事退職年金、遺  
族年金を合わせて、約1億7百万円を  
705名の方々に送りいたしました。

なお、次回給付は4ヶ月後の4月と、い  
つもより期間が空きますのでご注意くだ  
さい。

☆ 「教団新報・年金特集 No.82」を同封い  
たします。年金局ならびに隠退教師を支  
える運動の2024年度決算報告を掲載し  
ております。また、2024年度に隠退され  
年金受給者となられた先生から、近況を  
お寄せいただきました。この場をお借り  
して、執筆してくださいました先生方に  
感謝申し上げますと共に、隠退された先  
生方、ご家族様の上に主の豊かな祝福を  
お祈りいたします。

☆ 11月23日は、「謝恩日」です。全国の教会・  
伝道所に献金をお願いをしております。  
1964年の発足以来、多くの教会・伝道所、  
信徒のみなさまに支えられ、滞りなく年  
金をお送り出来ており大変感謝です。教  
団年金制度の大きな支えである「謝恩日

献金」と「隠退教師を支える運動100円  
献金」を覚えお祈りとお支えをお願い申  
し上げます。

＝計算書は、大切に保管してください＝  
確定申告の際などにご利用ください。遺  
族年金受給者の方には、必要とご連絡を  
いただいた方以外はお送りしておりませ  
んの、必要な方は年金局業務室までご  
連絡ください。

＝現況届の提出をお願いします＝

- ①記載事項に変更がある場合は、訂正事  
項をご記入ください。
- ②緊急連絡先が空欄の場合は、ご記入く  
ださい。
- ③2026年受給者名簿(9月発行)の住所、  
電話番号の掲載、配付についてのご意  
向をご記入ください。

以上をご確認の上、個人情報保護シール  
を貼付し、ご投函ください。

投函期限は、2026年1月末日です。期日  
を過ぎた場合も速やかにご返送ください。

＝近況をお寄せください＝

9月に受給者名簿をお送りしましたが、  
近年連絡先の非掲載を希望される方が増  
えています。お送りして間もなく受給者  
のおひとりからお手紙をいただきました。  
「……教団の教師を隠退して何年にもなり  
ますが、日々元気で安心して老人ホーム  
の生活をさせていただいています。……  
けれども年を取ると共に、知人が減りま  
して、さびしくなりました。…」と再び  
連絡先の掲載を希望されました。受給者  
名簿は、お取り扱いには十分ご留意いた  
だき、交わりにお役立てください。

本田由紀子

日本基督教団年金局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:nenkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org